

# 千葉県立中央博物館が実施する 夏休み自由研究相談の認知度

水野大樹

千葉県立中央博物館

〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2

E-mail: t.mzn23@pref.chiba.lg.jp

(2025年10月30日投稿；12月21日改訂；12月24日受理)

**要旨** 小学生を対象に、千葉県立中央博物館で実施している自由研究相談の認知度を調査した。その結果、自由研究相談を実施していることを知っていると答えた者の割合は11.8%と低かったが、85.4%が参加したいと回答していた。このことから、自由研究相談の周知に課題はあるものの、自由研究を行うに当たって博物館のサービスを利用することが有益であると認識されている可能性があることが示された。

**キーワード**：自由研究, 夏休み, 博物館, 小学校

千葉県立中央博物館は自然系・人文系の両分野を扱う総合博物館であり、講座や観察会を通して自然に親しむための体験的な活動を展開している。こうした野外に出掛け地域の自然に親しむ活動や体験的な活動を教育の中で多く取り入れることは、新学習指導要領（平成29年告示）においても重要視しており（文部科学省，2017）、児童・生徒が興味関心に基づいた探求的な学習を進める上で重要である。新学習指導要領では、博物館などと連携・協力を図り積極的に活用することが推奨されており（文部科学省，2017）、学校教育において博物館を活用することが求められている。しかし、教員側からすると、博物館の利用経験が少ないなど、博物館の活動実態を深く理解しておらず、教育現場において、どのように活用できるのかわからない場合もある。教育現場における博物館の活用が求められる一方で、どのように活用すべきかといった具体的事例がないことも、積極的な博物館の活用を阻害している要因の一つだろう。

学校の博物館利用に関しては、学校と博物館が互いに連携して教育を推進する博学連携の考え方が、1990年代頃から広まってきたとされる（駒見，2009）。教員と学芸員が連携して製作した学習プログラムの実施や、学芸員の解説に基づく展示見学、出前授業や移動博物館の実施など、様々な連携手法が確立されてきた。千葉県立中央博物館においても、博物館と学校の連携を推進させるための事業として、教員向けの研修を実施するなど、学校による博物館利用促進に努めてきた。しかし、博学連携事業における連携対象は博物館（学芸員）と学校（教員）であることがほとんどで、学びの主体である児童・

生徒が博物館（学芸員）と直接的に連携した取り組み事例は少ない。

中央博物館における講座や観察会等のイベントでは、児童・生徒を対象としたものも多数開催しているが、児童・生徒の興味関心に基づいて自主的に参加するものであり、学校教育の一環として連携を図っているものではない。中央博物館で実施する事業のうち、学校教育の一環に位置付けられ、かつ、児童・生徒が博物館（学芸員）と直接連携する機会を得られる事業の一例としてあげられるのは、夏休みの自由研究を通じた学習支援である。

自由研究は、学習指導要領上で定められたものではないが、ベネッセ教育総合研究所（2009, 2024）によると、2009年時点では小学校高学年の8割以上が、2024年時点においても小学生の6割以上が取り組んでいるとの報告がある。近年、夏休みの宿題として課される割合は減少傾向にあるが、いまだに多くの児童が夏休みに自由研究を実施している。しかし、保護者を対象としたアンケートでは、夏休みの宿題においてもっとも大変だと思うものに自由研究が選ばれているほか、半数以上の保護者が児童の自由研究の実施を手伝っているなど（ベネッセ教育総合研究所，2024）、児童だけで自由研究を進めることが難しいという実態もある。さらには、教員自身が、指導技術が低いと感じていることなど、学校教育だけによる指導では不十分な点が多いことや、多様な自由研究のテーマに対して対応するためのスキルが教員側に求められるため実践への負担は大きい可能性がある。一方、博物館の学芸員は専ら教育を専門とする職業ではないため、児童・生徒に対して教科書の内容に基づいた指導を

することは専門外であるが、特定の分野に対する専門知識を有しており、教員が指導可能な範疇を超えた知識の伝達をすることが可能である。

博物館が児童・生徒の自由研究を支援する取り組みは全国的に行われている（全国科学博物館協議会，2012）。中央博物館では、開館当初は、動植物標本相談会という実施形態から自由研究支援事業がスタートしており（千葉県立中央博物館（編），1991），内容や開催手法は年度によって異なるものの、夏休み期間において児童・生徒の自由研究を支援する事業を実施してきた。これらの事業は自由研究を手助けする上で一定の役割を果たしていると推察されるが、これまでその効果を検証してこなかった現状がある。

そこで本研究は、博物館における自由研究支援事業の効果を定量的に把握することを目的とした。効果把握の一環として、本報告では、中央博物館における自由研究支援事業の認知度に係る調査結果について取りまとめた。

### 調査方法

例年、中央博物館で夏休み期間に実施している自由研究相談会の認知度を把握するため、アンケート調査を実施した。調査は、自由研究への意欲が高い児童が集まる場である、千葉県総合教育センターが例年6月頃に主催している自由研究支援事業である「わくわく自由研究自由研究個別相談会（以下「個別相談会」とする）」への参加者（小学1年生～6年生）を対象とし、本人又は保護者に記入を依頼した。令和4年度から6年度の3か年にわたり、各年度の参加者に対して記述式のアンケートを実施した。アンケート項目は表1の通りである。

### 結果

令和4年度分14件、令和5年度分22件、令和6年度分15件の計51件回収した。

アンケート調査結果を表2に示す。アンケート調査の実施会場である「個別相談会」の開催をどこで知ったかという設問（設問1）に関しては、90.2%が小学校からの案内と回答があった。設問2において過去に学校の先生以外の指導を受けたことがあるか聞いたところ、「ある」と回答した児童は5.9%と少なかった。「個別相談会」の参加者が、中央博物館における自由研究相談会を知っているか（設問3）、また、参加したことがあるか（設問4）聞いたところ、知っているとした児童は11.8%と少なく、参加したことがあると回答した児童はわずか4.0%にとどまっていた。一方、参加したことが「ない」と回答した児童において、参加したいと思うか聞いたところ（設問5）、85.4%の児童は参加したいと思うと回答していた。

自由研究相談会の実施形態について複数回答を可として聞いたところ（設問6）、対面式の実施を希望する趣旨は回答数の過半数である55.8%であり、次いでオンライン型式を希望する回答が23.1%、電話相談を希望する回答が3.8%であった。

興味のある分野を記入した回答者は66.6%にあたる34名であった。表記はそれぞれ異なるものの、全員が教科別では理科に分類される内容を記載していた（表3）。

### 考察

今回のアンケート調査は、自由研究に興味関心のある

表1. アンケート実施項目.

項目		回答欄
設問No.	質問内容	
—	学年	( ) 年生
—	興味のある分野	自由記入
設問1	本日の個別相談会をどこで知ったか	自由記入
設問2	過去に学校の先生以外に自由研究の指導を受けたことがあるか	ない・ある (「ある」を選択した場合、自由記入欄に記入)
設問3	中央博物館で夏休み自由研究相談会を実施していることを知っていたか	知らなかった・知っていた
設問4	中央博物館の自由研究相談会に参加したことがあるか	ない・ある (「ある」を選択した場合、自由記入欄に記入)
設問5	(4で「ない」と回答した方に対して) 参加したいと思うか	思わない・思う (理由があれば自由記入欄に記入)
設問6	自由研究相談会の実施方法は電話、オンライン参加型、対面式等どのようなものがよいか	自由記入

小学生を対象とするため、千葉県総合教育センターが主催する「個別相談会」の会場において実施した。当該イベントをどこで知ったかを問う設問1では大多数の参加者が小学校からの案内と回答していたことから、個別相談会への参加者は自由研究を行うに当たって、学校の先生以外の第三者の助言や指導を受けたことになる。しかし、設問2において過去に学校の先生以外の指導を受けたことがあるか聞いた結果では「ある」と答えた児童は5.9%にとどまっており、参加者のほとんどはこれまで学校以外で自由研究の助言や指導を受けたことがなく、今回初めて参加を試みたものと推察される。また、参加者は小学校の案内を見て自主的に当該イベントへ参加していることから、自由研究に意欲的な児童は学校への広報物などからイベントの開催を把握し積極的に参加していることがわかる。

ところが、中央博物館における自由研究相談会の認知度（設問3）については11.8%と低く、参加したことがある児童は4.0%しかいなかった（設問4）。上記の結果を踏まえると、中央博物館における自由研究相談会の認知度が低いことは、広報・普及に課題があることが原因である可能性が高い。これまで、中央博物館の自由研究相談会は年間の行事予定やウェブサイトなどの一部で紹介するにとどまっており、自由研究相談会単体での広報はしてこなかった。積極的な広報により、認知度の上昇や参加者数の増加を見込むことはできると予想されるが、相談者一人一人に対する助言・指導の量や質の確保が困難になる恐れがあることから、児童が自由研究を進める上で博物館に求めているニーズを的確に把握し、博物館（学芸員）が支援することで自由研究の質を高めることができる対象者を適切に呼び込むことができる運営体制を構築していくことが重要であるといえるだろう。

ニーズの把握は、今回の認知度調査だけでは十分に実施できないが、中央博物館における自由研究相談会に参加したことがないと回答した児童であっても、参加したいと思っている児童は85.4%と高い割合を示している（設問5）ことから、児童の多くは、博物館が自由研究に活用できる場所であるという認識があるものと推察さ

れる。アンケート調査では、宇宙や物理、工作といった中央博物館では扱っていない分野の内容に興味があると回答した児童もいた。このような回答をした児童も、中

表3. 興味のある分野。理科に関わる回答にはアンダーラインを付した。

No.	自由記入の内容
1	<u>理科(天気)</u> 、社会(千葉県内の歴史)
2	昆虫
3	<u>工作、内部の構造を知る</u>
4	恐竜
5	理科
6	自然科学
7	科学の実験
8	<u>理科(まだ習っていませんが科学に興味がありそうです。)</u>
9	魚・手芸・数字・料理
10	生物
11	地震
12	<u>りかのじっけん</u>
13	<u>きょうりゅう</u>
14	物理学
15	<u>海の生物</u>
16	生物
17	<u>電磁力</u>
18	宇宙
19	鳥
20	工作
21	<u>物の性質</u>
22	科学
23	影
24	<u>イシクラゲ</u>
25	<u>化石、りか</u>
26	<u>りか、宇宙、どうぶつ</u>
27	工作
28	理科
29	宇宙
30	自動車
31	生きもの
32	いきもの
33	理科
34	<u>つばめ(鳥)</u>

表2. アンケート結果。

設問No.	回答 (%)				備考
	小学校の案内	メール	ウェブサイト	不明	
1	90.2	3.9	2.0	3.9	
2	ある	ない			
	5.9	94.1			
3	知っていた	知らなかった			
	11.8	88.2			
4	ある	ない			
	4.0	96.0			
5	思う	思わない			
	85.4	14.6			
6	対面式	オンライン	電話	その他の要望	複数回答可
	55.8	23.1	3.8	17.3	

中央博物館の自由研究相談会へ参加したいと回答していたことから、特定の専門分野の職員による質の高い専門的な相談に限らず、博物館を通じた自由研究のテーマ探しなど、自由研究の最初のステップの支援も含めて事業の運営方法を検討していくことが、自由研究でより多くの児童に博物館を活用してもらうことにつながるのではないだろうか。相談の方法についても、対面式、オンライン、電話など複数の手法の中では対面式で相談できるとよいと回答している児童が半数以上であったことから（設問 6）、実際に学芸員と直接話をしたり、展示や標本などを見たりすることで、児童の興味関心を引き出すことが、自由研究を進める上での意欲創出に良い効果を与えているのかもしれない。

### 謝辞

本報告をとりまとめるにあたり、千葉県総合教育センターの職員の方々にはアンケート調査の実施にあたり大変お世話になった。また、「わくわく自由研究 自由研究個別相談会」への参加者には、突然のお願いであったにも関わらず、快くアンケート調査に御協力いただいた。ここに深く感謝する。

なお、本研究の実施に当たっては、科学研究費補助金「博物館の自由研究支援事業の効果に関する研究—児童・生徒と学芸員による博学連携—」（課題番号 22K13789）の一部を使用した。

### 引用文献

- ベネッセ教育総合研究所. 2009. 小学生の夏休み調査—小学生の保護者を対象として—. [https://benesse.jp/berd/up\\_images/research/syo\\_nastu.pdf](https://benesse.jp/berd/up_images/research/syo_nastu.pdf)（最終閲覧日 2025.10.29）
- ベネッセ教育総合研究所. 2024. 2024 年、小学生の夏休みに出た宿題は？自由研究は保護者が「手伝う」派が 5 割強. <https://benesse.jp/kyoiku/202407/20240730-2.html>（最終閲覧日 2025.12.16）
- 千葉県立中央博物館(編). 1991. 年報 2（平成元年度）. 35 pp. 千葉県立中央博物館, 千葉.
- 駒見和夫. 2009. 博学連携に至る史的経緯と思考の道筋. 全博協研究紀要 11: 21–36.
- 文部科学省. 2017. 小学校学習指導要領. [https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt\\_kyoiku02-100002604\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_01.pdf)（最終閲覧日 2025.10.29）
- 全国科学博物館協議会. 2012. 特集：科学系博物館の自由研究支援事業, 全科協ニュース, 42(5): 1–11.

### Evaluation of the Level of Awareness Regarding the Support Project for Summer Science Projects Aimed at Elementary School Students, Held at the Natural History Museum and Institute, Chiba

Taiki Mizuno

Natural History Museum and Institute, Chiba  
955-2 Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba 260-8682, Japan  
E-mail: t.mzn23@pref.chiba.lg.jp

A survey was conducted to evaluate the level of awareness regarding the support project for summer science projects aimed at elementary school students, which is held annually at the Natural History Museum and Institute, Chiba. The findings revealed that a mere 11.8% of respondents knew about the existence of the support project, yet 85.4% expressed an interest in participating. This suggests that, despite the challenges in promoting awareness of the support project, students and parents may recognize the potential benefits of utilizing museum services in conducting their summer science projects.